

国連憲章体制への挑戦

(『国連研究』第9号)

目次

序文	3
I 特別寄稿 回顧と展望—国連加盟後の50年	緒方貞子 11
II 特集テーマ「国連憲章体制への挑戦」	
1 世界秩序再構築への展望	藤田久一 27
—国連憲章システムと「保護責任」論	
2 《国際法の隘路》としての《国連の隘路》	最上敏樹 51
3 多国籍軍型軍事活動の展開にみる集団安全保障体制の潮流	山本慎一 75
4 Does the UN Need a Secretary or a General?	Simon Chesterman and Thomas M. Franck 97
III 独立論文	
5 国連憲章第7章第51条と『二重の鍵』	吉留公太 113
—ボスニア紛争における航空戦力利用をめぐる 米欧論争の分析	
6 国連安全保障理事会による国際テロリズムへの対応	丸山政己 133
—狙い撃ち制裁をめぐる法的問題に関する一考察	
IV 研究ノート	
7 北朝鮮をめぐる「核危機」と国連経済制裁	本多美樹 159
8 真実委員会による暴力の再発防止	古内洋平 189
—国家主導の委員会と国連主導の委員会の比較	

V 書評と紹介

- 9 「国際社会の組織化」—その発展と変容
佐藤哲夫『国際組織法』、最上敏樹『国際機構論』…香西 茂 223
- 10 「国連像」内と外から—近刊2編の紹介を通して
明石康『国際連合一軌跡と展望』、
北岡伸一『国連の政治力学 日本はどこにいるのか』……………
……………安藤仁介 235
- 11 『オーラルヒストリー：日本と国連の50年』……………庄司真理子 244
- 12 ケント・J・キル『管理者的タイプからカリスマ性を持つ
タイプまで—国連事務総長』……………大泉敬子 250
- 13 アデバジョ、スカロン編『難聴者の会話
—アフリカと国連に関する論文』……………長谷敏夫 256
- 14 David M. Malone, *The International Struggle over Iraq:
Politics in the UN Security Council 1980-2005*, ……………Lui Teiwa 262
(デービッド・マローン『イラクに対する国際的闘争
1980—2005年の国連安全保障理事会の政治』)
- VI 日本国際連合学会から …………… 273
- VII 英文要約 …………… 281
- 編集後記 …………… 304
- 執筆者紹介 …………… 305